

教育目標		本校の特性を生かし、感性を育み、心豊かな生徒の育成を目指す				総合評価	
運営方針		基礎学力の充実と規範意識の醸成を土台にコミュニケーション力、自己表現力を身につけた人材の育成する					
		県下唯一の芸術科を有する学校として、「誇り」と「意識」を持ち、常にアピールとチャレンジを続ける学校を目指す					
		教職員全てが学校運営を担う意識を持ち、常に一步先を読み、前向きで自発的に企画・運営に当たる学校を目指す					
平成21年度の成果と課題		本年度重点目標		具体的目標			
授業評価の成果により、少なからず改善がみられ、授業に対する意識は向上した。芸術科の中期計画を策定してきたが、十分な結果は得ていない。本年度も引き続き重要課題である。		基礎学力の定着と学習意欲の向上		積極的な授業公開を展開し、わかりやすい授業をすすめ、学力の向上に取り組む。			
		規範意識の醸成とコミュニケーション力の育成		一人ひとりの生徒理解に努め、はじめある生活態度を育成し、自立心や社会の一員としての自覚を深めさせる。			
		自己理解と主体的な進路実現		キャリア教育に積極的に取り組むことにより、生徒自身が主体的に進路を選択できるよう計画的・組織的な指導を進める。			
		中・長期計画の策定		本校の将来を見据えた教育課程・人材確保・設備・広報等の確立を目指す。			
評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策	
企画	積極的な情報提供と情報発信	学校説明会の充実やWebページの更新(トピックス:随時、行事:実施後1週間以内、その他:更新後2週間以内)に努める。	A	①学校紹介用のパンフレットを3000部作成 ②学校説明会参加人数(生徒数) ・美、デ科学校見学会 142名(134名) ・音楽科学校見学会 150名(99名) ・普通科学校見学会 143名(115名) ・オープンキャンパス 170名(163名) ③「明光義塾」、「中部教育研究会」、「奈良県進学祭(主催:学習塾 優)」へ参加。 ④山添中、天理北中の説明会へ参加。 ⑤Webページ更新講習会を実施 →更新されるページが増加。	運営委員を中心とした中学校訪問の時期を早めたい。さらに、訪問時のやりとりを円滑にするために、アピールポイント等について事前学習会の開催を検討する。	・学校行事計画の情報発信等、役立っているとの評価をいただいた。一方、学校の情報が十分には家庭に伝わっていないのご意見もいただいております。今後一層伝達方法を工夫する必要がある。	
	授業評価の積極的活用	1学期、2学期終了時に出力→各教員に配布→1週間以内のレポート提出を行う。	A	B	計画通り実施でき、授業改善に結びつけることができた。	来年度も継続する。	
	「高志創造」の時間を核に据えたコミュニケーション力の向上	教材の充実(図書館の協力による新聞のストック、読売新聞配信のワークブック活用)を図る。授業公開月間における授業公開の促進に努める。外部講師の活用を模索する。	B		①司書の先生に資料(新聞等)の整理をいただいております。また、新聞教材を選ぶ際にもアドバイスをいただいております。担当の先生方にはクラスの実態を考えながら取り組んでいただいております。 ②朝日新聞社主催の「新聞活用セミナー」を実施した。	・平成22年度の具体的方策は継続する。 ・コミュニケーション力を向上させるため「単語で話さない指導」を徹底したい。 ・コミュニケーション力向上と生徒募集の観点から「挨拶」の徹底化を図る。(生徒指導G,生徒会Gとの連携)	
教務	学力向上のための授業時間確保と授業の改善・充実	年休・出張等による自習時間がゼロになるよう努める。	B		前もってわかっている分については9割方時間割をふることができた。	突発の休みに対し、他教科を含めてグループを組み、授業で対応できるよう声かけをする。	・公開授業について、「生徒が授業に熱心に取り組んでいる様子がわかった」「先生の話が興味深かった」等の感想をいただいた。
		6月・11月の授業公開月間に、全教科で授業公開を実施する。	A		B	全教科で公開授業を行うことができた。	

総務	儀式での集中力の向上	担任、副担任による列内指導や授業での適切なはじめある指導とおし、集会等で私語が一切聞かれない状態にする。	A		集中力が上がってきた。私語ゼロとはいかなかったが、静かにできるようになった。	列内指導をしてもらっているが、1・3年の先生は横で、2年の先生は後ろで式参加していただく。	情報の共有化をどのように図っているのかとの質問をいただいた。 ・文化祭での、ホールコンサートが好評をいただいた。 ・家庭との連絡にメールを活用することを考えてはどうかとの意見をいただいた。
	保護者との意志疎通の向上	育友会学級役員との連携を図り、各行事への保護者参加率20%を目指す。	B	B	公開授業の保護者参加率は10%未満に留まる。20%に達したものは、高円祭。	緊急連絡メール(90%登録)を一般連絡に利用することを検討する。 育友会総会と公開授業と組み合わせるなど考える。担任との懇談会を後に組み合わせる。	
	教職員の共通理解の向上	会議等での連絡事項の徹底に努めるなど、全職員で情報の共有化を図る。	A		副担任にも文書配布があり、共有化が図れた。	配布がないときは、職員室連絡黒板に1枚貼付し、情報の共有化を図る。 生徒掲示板及び職員室前の行事黒板を活用する。	
情報システム	情報インフラ整備に係るシステム構築	名簿管理システムを中心とした各種システム構築を図る。完成度100%を目指す。	B	B	各分掌等に対し、システムに関する要望調査を行った。その結果を含めた各種システムの設計を開始した。システム完成度は全体の70%。	次年度は、今年度に構築したシステムの改善と、システム全体の完成を目指す。	・特になし
学習進路・キャリア教育	生徒の自発的な学習の啓発と主体的な進路実現の支援	・進路ガイドブックの充実やキャリアデザインインフォメーションの発行等による情報提供に努める。(学期3回の発行) ・大学見学会等の進路関係行事の改善と実施を行う。(年間2回実施)	A	A	・進路ガイドブックは合格体験談をマンガで表現したり、図や表を多用して親しみやすくした。 ・キャリアデザインインフォメーションはほぼ毎月発行できた。 ・大学見学会は生徒の要望に合った内容で2回実施でき、参加者も増えた。	・進路ガイドブックの内容の精選・キャリアデザインインフォメーションなど保護者への情報提供の改善と工夫	・説明会等、保護者が参加しやすい時間帯や曜日を考えるべきだとの意見をいただいた。
	本校におけるキャリア教育の構築と推進	・教員対象のキャリア教育研修会を実施し、理解と啓発に努める。(年1回) ・生徒向けのキャリア教育ホームルームの工夫と改善を行う。	A		・教員対象のキャリア教育研修会を実施できた(講師:佛教大:原教授)。 ・生徒対象のキャリア教育HRは1学年と2学年でそれぞれ計画的に実施できた。	・効果的で実践的な教員対象のキャリア教育研修会の実施の工夫と改善	
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	・挨拶の徹底や遅刻の防止に努め、正しい言葉遣いの指導にも積極的に取り組む。特別な事情のない限り、全生徒が8:30には昇降口を通過できることを目標とする。	B	B	挨拶を積極的にする生徒は増えてきたように思えるが、やはり言葉遣いがきちんとできない生徒が多い。目標においた8:30に昇降口通過に関しても、達成できなかった。来年度への課題にしたい。	22年度の活動を継続する。	・本校生が特に良くないとの評判は聞かないが、乗車マナーや通学マナーの悪い生徒がいるのも事実で、さらに指導を継続してほしいとの意見が出された。
	日常生活におけるマナー、モラルの周知徹底	・登下校時における、公共交通機関でのマナー、モラルの周知徹底を図り、外部からの苦情等一切ないよう努める。	B		マナー、モラルに関しては、日常から指導していたが苦情の電話や、校内での落書きがあり残念であった。	22年度の活動を継続し、1件でも苦情を少なくする。	
人権教育	部落問題をはじめとするあらゆる人権問題に対する意識の向上を図る	・現地研修等の職員研修を実施し、職員の意識の向上を図る。(年3回の研修を実施) ・人権HR及び、奈良養護学校・バルツァーゴードル(重症心身)障害者施設との交流の実施により生徒の人権意識の向上を図る。(年4回の交流実施)	B	B	職員研修については、新着任用対象に現地研修を行うことが出来た。しかし、全体研修については行うことができなかった。人権HR及び障害者施設・養護学校との交流は計画通り行うことができた。一定の成果はあったように思える。	来年度も継続していきたい。	・コーラス部等との交流に感謝の意見が出された。

文化体育	生徒の自主的・自発的な活動の推進	・生徒会役員の自主的・自発的活動への誘導と活動成果の広報を学期に1回実施する。 ・文化祭・体育大会等の学校行事への全員参加を実現する。	A	・生徒昇降口手前の掲示板に、学校行事の写真等を掲示することで、生徒会への関心を高めた。 ・美化委員・運動部員と共に校外美化活動を実施した。 ・生徒会役員が部活動にも参加しているので、生徒会活動に専心するのが難しかった。	・生徒会の広報活動を一層高める。 ・ボランティア活動・美化活動を一層広める。	・通学路清掃等、地域の人に喜ばれる活動を一層進めるべきだとの意見をいただいた。 ・部活動の活性化をさらに図るべきだとの意見が出された。
	部活動の活性化	部活動維持のために、生徒会費の積極的な活用を図り、部活動加入率を1割上げることを目指す。	B	・昨年度1学期当初の部活動加入者数は運動部・文化部合わせて333名であった。本年度は合計346名と増加した。しかし、学期が進むにつれて活動者が減少した。	昇降口両側のボードを活用して、部活動への関心を高める。	・体育大会で入場行進を行ったことが、クラスの団結を高めるのに有効に働いたのではないかと意見をいただいた。
	図書館運営の活性化	・コミュニケーション能力育成につながる資料を充実させる。 ・図書委員などによる図書の紹介で貸し出し数の1割増加を図る。	B	・図書購入資金に限りがあり、思うように資料を充実させることが出来なかった。 ・貸し出し数は微増に留まった。	蔵書の充実をはかると共に図書委員による図書の紹介を更に進める。	
健康・環境	・自己の適切な健康管理の徹底と問題の早期発見 ・教育相談の定着	・生徒保健委員会を月1回実施する。 ・保健室来室生徒について担任等との連絡を密にする。 ・ピア・クラブ活動を月1回実施する。 ・「健康・美化通信」月1回発行する。	B	・各種検診を通して、生徒の健康に対する意識の向上に努めた。(保健日より発行) ・ピア・クラブ等の月1回の活動が定着しつつある。 ・通信の発行については、保護者からの反応も赤い山に定着してきた。	・22年度までの活動を継続する。 ・特別支援教育の充実	・多様な生徒に対してきめ細かく対応してほしいとの意見が出された。
	校内美化の徹底と安全面の強化	・校内および校外美化活動を学期に1回実施する。 ・避難訓練を通じ安全面の意識の向上を図る。 ・美化委員会を学期に1回以上実施する。	A	・美化委員、保健委員、ボランティア生徒等多くの生徒の参加が見られた。 ・避難訓練、通報訓練、消火訓練の実施で安全面の意識の向上を図れた。・美化委員会を学期ごとに必要に応じて開催することができた。	・22年度までの活動を継続する。	
第1学年	礼儀正しい生活態度を育む	全生徒が挨拶の励行や正しい言葉遣いができるよう、学校生活の中で指導する。	B	・入学当初、挨拶ができない生徒が多かったが、大抵の生徒が自分から挨拶できるようになった。敬語や丁寧な言葉をうまく使えない生徒が依然多い。	・言葉づかいの向上に取り組みたい。	・特になし
	予習復習の徹底	家庭学習の充実を期すため、ノートや課題の提出等工夫し、全生徒が予習復習する習慣づけを行う。	B	・予習・復習は習慣化できている生徒も増えていますが、学習時間が少なすぎるので、自ら課題を見つけて取り組む姿勢をつけていきたい。	・各教科と連携し、学習方法に関して踏み込んだ指導を行う。	
	時間を守らせる	遅刻や教室移動の際の入室遅れなどの指導を通じ、時間を守ることの大切さを指導する。遅刻の多い生徒には課題を課す。(学期に10回以上の遅刻者をゼロにする。)	A	・教室移動、集団行動等迅速に行動できるようになった。	22年度までの指導を継続する。	
第2学年	中間学年としての自覚ある態度を育てる	服装・頭髪等を直すなど、中間学年としての自覚を促す指導を徹底する。挨拶の励行、年長者に対する敬語の徹底や遅刻の減少に努める。(中間まで5回以内、年間15回以内を目標とする)	A	頭髪の指導については、90%以上の生徒がよく指導にのり、大きな問題はなかった。言葉遣い等の年長者に対する挨拶についても、95%できたと思われる。遅刻指導の生徒も、1年間で、80%減少した。	頭髪、服装の指導については、今後も同じ形で進める。電車の延着証明は20分以内は認めないようにする。	・特になし
	コミュニケーション能力を高める指導	週3回は昼食時に校舎を巡回し、生徒と多く会話をすることにより、相互理解が図れる会話能力が身につくよう指導する。	B	昼食時の巡回は週1回程度になり、会話の回数が減少した。	登校時にできる限り、生徒と会話し、相互理解を高める。	
	学習に対し前向きに取り組む姿勢を養う	日々の授業は勿論のこと、実力養成講座、各種模擬テスト等にも積極的に参加させる。(講座参加率50%以上を目標とする)	B	模擬テスト等は全員受験以外は、数十人という実態である。自宅学習も明らかに足りない。	進路に対する意識を高める行事を多く設定したい。	
第3学年	規範意識を高め、自らを律することのできる生徒を育てる	服装、頭髪、遅刻、礼儀等の指導を日々行い、不十分なものは集会等を持って指導する。(毎日指導が実施できたか、適切に集会が実施できたかを指標とする)	A	学年全体としてはおおむね良好で、目標は達成できた。頭髪指導や遅刻指導も計画的に実施できた。ただ、化粧等の指導が全体として共有できていなかった。	個々の実践を検証し、次年度に生かす。	・担任を中心とした進路指導への感謝の意見が聞かれた。
	学年団と学習進路部が一体となって生徒の進路実現を目指す	学年団と学習進路部との連携を常に図り、学年会議等の機会をとらえて進捗状況を確認し、報告を定期的に行う。(月1回は実施する)	B	学年会議ごとに情報提供や進路の状況は報告し、学年全体で共有できた。しかし、目標とした月1回の報告はできなかった。	個々の実践を検証し、次の機会に生かす。	